

平成25年度 わくわく市民懇談会

- 1 日 時 平成25年6月25日(火) 午後7時00分～午後8時30分
- 2 場 所 中野市人権センター 第2会議室
- 3 出席者 日本語教室 日本語ボランティア、託児ボランティア 12名
市長、随員職員2名
- 4 次 第
 - 1) 開会
 - 2) 自己紹介
 - 3) 市長講話
「これからの中野市」
 - 4) 質疑応答・意見交換

「市長講話」

冒頭のあいさつ（わくわく市民懇談会について）

- 学生時代にテキサス州に滞在したことがある。空軍のソーシャルワーカーのお宅に泊まり、私が英語を教わり、私が日本の文化を教えた。国際交流は大切な事である。いろいろなところで私が、何を感じ、考えているのかをお話をしながら、また、ご意見をいただきながら、中野市をこれからより元気に行きたいと考えています。

中野市を取り巻く環境変化

- 人口の減少
- 新幹線の開業 交流が増えます
- グローカリズム
文化交流・国際交流をする中で幅広い視野で地域を考えていく。軸は地域で視野は世界的（グローバル）で実践していく。
- 豊かさの変容
GDP・GNPの中で、水資源・土壌の豊かさ・暮らしの質・気候の安定などは入っていないが重要視されてきている。

中野市の人口減少

- 人口推計をみると日本の高齢化は2020年からまだ高齢化率が上がっていく。人口の構成比を見ても変わってきているのがわかる。昭和35年に14歳以下32.5%、65歳以上7.2%が、平成24年には14歳以下13.8%、65歳以上26.5%。老年人口指数は昭和35年に11.9であったものが、平成24年には44.7となっている。
江戸時代、日露戦争、第二次世界大戦などを経て日本は人口が増大していき、現在はピークアウトし人口が減少している。今までは人口が増える中での経済政策・社会生産であったが、これからは人口が減る中での政策をやっていかなければならない。これまでの事を考えて延長線上でやっては上手くいかない。ここで、日本人は知恵を絞らないといけない時代になった。人口減少している中で、中野市の人たちで域外の人も含めて総合政策地域研究を本格的にやっていきたい。
長期的には人口減少・少子化社会であり、これからの地域社会、コミュニティーのありようも人口が減少する中で、様々な問題を解決していかなければならない。

人口減少時代の Policy of Local Administration

○ 企業誘致

山から見ると境界はわからない。エリアで考える時代だと考えている。
昔は企業誘致であったが、私は企業人を誘致し、育成したい。中野市に來れば地域の企業のノウハウや企業ができる環境があれば人が集まってくる。

○ 都市計画地域の再編・自治体経営

人口減少による公共政策・都市計画を変えていかなければいけない。これからは市民参加でやっていかないといけない。人口が減っていくため、全てが行政でできるわけではない。行政は小さければ小さい方がいいという人もいる。

○ シティーセールス

中野市は知られていないので、東京・横浜でシティーセールスをしている。農産物を売るのではなく、環境を売ったり、住んでみませんか。長野県も同じことを行っている。

○ 連携による文化戦略

中野市だけで地域の文化を維持しているのではない。すべてが関係している。久石譲さんは長野市に取られたと言う人もいるが、そうではない。久石譲さんは世界の久石譲さんである。中野市のものだと考えている考え方ではいけない。長野市がたたくさんのお金を払ってくれて、この中野に関係をつけ、中野市出身であると広めてくれているから長野との関係は切れない。いつでも中野に来てもらえるだろう。

○ 自治体経営改革

行政が儲けてはいけないのは変だ。ビジネスチャンスとして、税金だけではなく行政も収入を得る方法を考えなくてはならない。

例) 神戸市 六甲の水

北陸新幹線と地域間競争

長期的には人口減少、直近では北陸新幹線。

広くとらえていくことが重要で、信越9市町村で広域連携していく。

飛騨高山・五箇山・白川郷のエリアと、この地域のエリア対決を考えていくことが重要とJRの人は言っている。そして上信越国立公園を囲む形で電車が走ることになるので、それで観光開発をしていきたいと言っています。

日本国内だけで考えているわけではない。インバウンドで海外にこの地域は素晴らしいと売り込んでいくことが必要。今考えているのは健康。この地域が長寿、空気がおいしい、水がおいしい、ここに來れば長生きできます。ブルガリアのヨーグルトみたいに。

北陸新幹線による時間距離変化

この地域には約 50 のスキー場がある。野沢温泉、白馬、志賀高原、妙高・赤倉等。こんな地域は世界でもとても珍しい。

新幹線は 2 年弱、もうその先までの計画が走っている。10 年後には鶴賀まで行ってしまふ。日本三景の天橋立まで 2 時間半ぐらいで行けるようになるかもしれない。もう、それぐらいの時間距離です。金沢まで 1 時間、市場で買い物をし帰ってくることもできる時代がもうそこまで来ている。

新幹線が 8 両から 12 両になる。4 両増えることでほくほく線をカバーできると JR は考えている。1 万人が新幹線で長野に来て通過することになる。通過させないで降りてもらふ策を考えることが必要でこれが経済活性化となる。

私も東京は気楽に行けるので、今までは首都圏の事を考えていた。東京から長野まで 1 時間半。長野から金沢まで 1 時間。関西からくるには東海道新幹線に乗るよりもひかりとしらさぎを乗り継ぐと 3 時間半で来ることができる。時間距離が短縮されている。

信越 9 市町村のポテンシャル

9 市町村が一緒になるとポテンシャルは目先が広い。愛媛県の 90% である。9 市町村で人口 15 万人であるが、10 万人を切ってくるような世界になってくるだろう。そういう世界がもうそこまで来ているこのことを射程に入れながら物事を考えていく。これには連携しかない。

地域を豊かにする経営思想

私たちが地域を豊かにしていくために理念を持ちましょう。公益性、利他性、自立性、精神性。言いたいのは「自分たちで自分たちの地域を考えよう！」もう一度、文化などみんなで見直す機会。中野から離れて生活している人から中野を見たときに、地域の人には見えないものを提供して協力してもらい作っていききたい。あるべき姿みたいなものを共有することができたらそれに向かってどうするか戦略的な政策をどうしていくか。

政策ディメンション

あるべき姿とはどういうことか。グランドデザインを描こうと言うこと。内山さんという方が言っています。「その地域を作り出そうという思想がある方にあるのではないか。どんな暮らしができる街を作りたいのか、どんな働きをするまち

にするのかということ」をみんなで考えていきましょう。

例えば、雪の文化。「これは世界に売れる。」と思えば自信を持ってこの地域を売ればいい。いろいろあるが、このグランドデザインをみんなで共有し、境界を無くしていきたい。

○医療ツーリズム

北信病院の先生と話したところ、医療ツーリズムをすると、医師やレントゲンを撮る人などが足りないそうです。なので、健康ツーリズムということで例えば「この地域に1年住めば3年寿命が延びる」などと宣伝をして人を寄せたい。

○音楽交流・異文化交流

私の先輩が横浜でアメリカ・カナダの学生さんと常に交流をして日本語や文化を教えたりしている学校がある。横浜も外国人が多い。中野も中国の方がかなり多い。そういう交流を通じて違った目でこの地域を見てもらうことも考えられる。ゲストハウスを作って、海外らに来てもらう。海外からお客さんがリュックサック一つで来てもらった時にお手伝いをしてもらうなどの機会があると仕掛けとして面白いと考えている。

これらは総合的にやっていかないといけない政策だと思っている。

地域づくりのイメージ

地域の人に言っていることだが、「市長、なにかやってください。」「こういうのがあったらいいなあ。」ではなく、自分たちの地域をどうしたいのか自分たちで考えてほしい。それがコンセンサスを得られれば市として何かお手伝いしますというスタンスでいきたい。これからは行政が上から「これをやってくれ。」と言ってもそれをやりたいという思いがないと継続・持続しない。

各地域で地域をどうしていきたいかを出し合い、市民参加、協働でそれを私がまとめ中野市のブランドとなって、信越自然郷のなかで中野市の特徴が出てくるだろう。

考え方の例として、豊田地域、赤岩の果樹地帯、東山文化圏、中心市街地がある。新幹線ができたときに、入ってくる道路はどこだろうと考えてゾーニングしていく。

岩松院まで来た人がなぜ中野まで流れないか。それは、それだけの魅力や宣伝をしていないからと思うので、そのような手立てをやっていきたい。

変わらないのが異常で変わるのが常なので、どんどん変えていきましょう。

見方を変える。いつも日本は太平洋に向かって島国だと思っていたが、逆さにしてみると日本海を挟み日本海の圏域、地中海の様な領域。平和な世界を築けば、いろいろな取引ができる広い可能性を持っている圏域である。

オーストラリアの世界地図は私たちがいつも見ているものと逆であり、私たちがいつも思っている世界観とは違ってみているところが面白いなあとと思う。こういう見方は日本語を教えたり、交流する中で考え方の違いはこういうことだと思う。

地図を逆転させ、下から見ると拡散しているように見えるが、飯山から見ると放射状にどうやって人を移動させるか、どうやって繋ぐか。また考え方が変わってくるとまとまって見えてくる。どうやって人を通せばいいか。

未来の事はわからないと言うが、人口はわかる。しかし、私たちの周りに起きているニュースを聞いているとそこに20年30年先の変化のヒントがある。

未来はもうすぐそこまで来ていて、もう走り出している。20世紀の初めに村井弦斎という人が23項目未来に何が起こるか予測している。18項目が20世紀中に出来上がった、完成している。現在進行形で語らないといけない。人口が減少してきたところで私たちが当たり前だと思っている世界観が変わるかもしれない、かわってきている。

未来を予測して、これから20年後どうなるんだろう。かなりの勢いで技術が進んでいる。

まず皆さんにこの中野市周辺やこのエリアの夢をまず持ってもらいたい。

風光明媚で、こんなにいいところだと皆気付いていない。友人を中野に連れて来ると皆が満足して帰っていく。もっと自信を持って世界にこのエリアと一緒に売り込んでいくことが必要だと思う。

質疑応答・意見交換

Q：ブラジル人家族4人で中野市に住んでいる人の話。正規の仕事がしたいと夫婦はおっしゃっている。息子は大学を卒業し4月から一人暮らしをしている。娘は小学生。子供たちは日本語が堪能である。

今年地域のPTAの役員となったが、読んだ大体の事はわかるが、中身がわからない。娘は内容がわかるので両親に説明をしてもらおうが、両親は理解できない。とても大変なため役員を辞めてしまった。言語の問題と社会性の問題がある。社会システムの問題がある。地域の文化、暗黙の了解など言語以上の文化の問題があった。暗黙の文化が外国人のネックとなっている。

息子が日本人化しようとしている。娘もいずれそうなるのではないかと思う。

言語継承をどうしていくか、家庭・地域でのコミュニケーションが豊かにとってもらいたい。

どうしても私たちは外国人の方に日本人化を求めてしまうが、私たちももう少し国際化していく視点、言葉にならないものも言葉にしていく努力をしていかななくてはいけない。

地域の国際化が必要で、子どもを通しての親同士のネットワーク、民間での支援ボランティア、隣組、フレンドシップ、部落等での行き来ができる友達関係、行政では公民館や人権センター等の窓口となり結びつける支援をしてもらえたらいいのではないか。

市長は全体的な構想・鳥瞰図的な話であったが、外国人の実情とどう噛みあうのか。ゲストハウス、信州自然郷など、外国人との交流は観光客を思い浮かべてしまう。私たちは観光客ではなく、定住している外国人の問題をどうするか。観光客に対する接し方と定住している外国人との接し方にどういう風につながっていくのか。

A：観光はサイトシーイングではなく、ツーリズムを考えている。観光よりはもう少し長い期間。その地域の中で1ヶ月など過ごしてもらうことを想定している。弾丸旅行ではなく、定住に近いもの。民泊とかでないと地域の活性化につながらない。関係性が作れるものと考えている。

Q：観光客に対してはよく接してくれるが、定住している外国人に対しては優しいのか、住みよいと思えるのか。冷たいと感ずることがある。ここを改善することで、外国人の観光客も増えていくのではないか。

A：横浜でも経験したが、ごみの出し方、町内会の関係、普段の付き合いの中で分かってもらう。郷に入ったら郷に従う。コミュニティーを掲載するために基本的なことは守ってもらわないといけないと思う。

皆さんの言っていることはわかっているつもり。住んでいる人がどんな問題を

持っているのか、課題を抱えているのか。

○何年間の契約で日本に来てお金だけを持って帰る。本国に帰った時に日本人の友人ができたと思えるよう、お金だけではなくよかったと思えるようになってほしい。日本語教室はそんな思いも流れている。外国の人が何を思っているのか、何ができないのかなど警戒している部分がある。ひとつひとつ克服していき、輪を広げていく。日本語教室で分かり合えるようになっていきたいと思う。

○託児だけを行っていたが、街でかつて勉強していた人が声をかけてくれた。赤ちゃんだった人が高校生になっているなど、この教室に関わらないとこういう関わりがなかったと思う。母親は日本の文化もたくさん知ってほしいと思っている。お姑さんたちと暮らしていると学べる機会があるが、そうではなく仲間内だけでは吸収する機会がないため、日本語教室を頼ってくる。小さかった子供たちも中野市を支える存在となっている。日本人化したいと思う子もいるが、両方の文化を知る子供たちはとても大事な存在となってくると思う。

Q：韓国の男の子が公立高校へ入るためのお手伝いをした。義務教育になるように関わったりする。外国の子供が来た時に公立高校へ入るのは難しい。経済的なこともあったり、こういう子のフォローが必要。こういう場合はどこに相談へ行ったらいいのか。窓口がわかりにくく、すぐにフォローできるところがない。

外国人の相談窓口的なものはあるのか。私たちに相談に来ると言うことは相談窓口がわからないからではないか。市民としてきた人が市に相談するところはあるのか。

相談する時間がない、相談相手がいないという人は多い。繋いでくれる人がいればいい。長野までいくとスタッフが配置されているが、中野ではまだないので、検討していきたい。

A：ワンストップで問題が解決できなくても、ナビゲーションできる窓口があるといいのかもしれない。県の窓口等を熟知して紹介したりなど。

Q：交流についてどう考えているか。交流というと定住外国人の事を考えてほしい。外国でも移民外国人との関係をどうするかが問題となっている。中野の国際化も同じ。会話ができれば学校の勉強もできるようになると思っている人が多い。週1回程度の日本語教室だけではついていけない。誤解を解くことが必要。

定住外国人について考えなくてはいけない時代。日本人と結婚すれば、それぞれの問題を抱えている。日本語教室で生活までのサポートはできない。できる範囲で個々に対応はしているが、すぐに答えが出る問題ではないので。

A：中野市に問題があると言うことは他市でも同じ問題を抱えている。他市町村の状

況を調べて報告する機会を持ちたい。人口減少の中、GDP の確保をしていくためにも外国人が必要。中野市も国際化していかなくてはいけない。日本人も外国人を知っていないといけない。

受け入れるコミュニティーの問題、駆け込み寺として今あるもの窓口をナビゲーションしたり、制度の問題、相談できる場の周知、外から新しくコミュニティーへ入ってきたときに日本語教室についてや、こんな時はここに相談するなどのオリエンテーションをそれぞれの言語でできればいい。

Q : 隣組、大家さん、同級生の親との関係などを作る、人間的触れ合うような関係が大事。広くなるよう、行政は市民がそうなるようにきっかけづくりや仕掛け人、市民が定住外国人と接する場を考えていただければ協力していきたい。

A : 事例検討をしてみます。中国の方と国際結婚をした元部下が3人いる。現在も交流もあり、それぞれいろいろな問題を抱えている。

海外の人が来るときに良好な関係で溶け込めるか考えていきたい。